

## 使用上の注意改訂のお知らせ

催眠・鎮静・抗けいれん剤

日本薬局方 フェノバルビタール

**フェノバル®原末**

日本薬局方 フェノバルビタール散10%

**フェノバル®散10%**

フェノバルビタール錠

**フェノバル®錠30mg**

フェノバルビタール芳香甘味液

**フェノバル®エリキシル0.4%**

劇薬、向精神薬

習慣性医薬品：注意-習慣性あり

処方箋医薬品：注意-医師等の処方箋により使用すること

鎮静・抗けいれん剤

**フェノバル®注射液100mg**

劇薬、向精神薬

習慣性医薬品：注意-習慣性あり

処方箋医薬品：注意-医師等の処方箋により使用すること

抗てんかん剤

日本薬局方 フェニトイン散

**ヒダントール®散10%**

劇薬

処方箋医薬品：注意-医師等の処方箋により使用すること

抗てんかん剤

日本薬局方 フェニトイン錠

**ヒダントール®錠25mg**

**ヒダントール®錠100mg**

処方箋医薬品：注意-医師等の処方箋により使用すること

抗てんかん剤

**ヒダントール®D配合錠**

**ヒダントール®E配合錠**

**ヒダントール®F配合錠**

劇薬、向精神薬

習慣性医薬品：注意-習慣性あり

処方箋医薬品：注意-医師等の処方箋により使用すること

2021年7月

製造販売元 藤永製薬株式会社

販売元 第一三共株式会社

このたび、標記製品の「使用上の注意」の一部を改訂いたしましたので、ご連絡申し上げます。

つきましては、今後のご使用に際しご参照いただくとともに、副作用等の治療上好ましくない有害事象をご経験の際には、弊社MRに速やかにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

### 1. 改訂の概要<自主改訂>

【フェノバル原末・フェノバル散10%・フェノバル錠30mg・フェノバルエリキシル0.4%・フェノバル注射液100mg】

(1) 「禁忌」及び「併用禁忌」の項に以下の薬剤を追記しました。

- ドラビリン
- ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド
- ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド

(2) 「併用注意」の項に以下の薬剤を追記しました。

- ラルテグラビル
- ドルテグラビル
- ドルテグラビル・ラミブジン
- ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジン

流通在庫の関係から、改訂添付文書を封入した製品がお手元に届くまでに若干の日数が必要ですので、ご使用に際しましては、ここにご案内申し上げました改訂内容をご参照いただきますようお願い申し上げます。

- (3) 「禁忌」及び「併用禁忌」の項のバニプレビル、ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビルを削除しました。
- (4) 「併用注意」の項のインジナビル、サキナビルを削除しました。
- (5) 「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項の記載を整備しました。

#### 【ヒダントール散10%・錠25mg・錠100mg】

- (1) 「禁忌」及び「併用禁忌」の項に以下の薬剤を追記しました。
  - ドラビリン
  - ルラシドン
  - ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド
  - ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド
- (2) 「併用注意」の項に以下の薬剤を追記しました。
  - セリチニブ
  - アパルタミド
  - レテルモビル
  - ラルテグラビル
  - ポサコナゾール
  - ドルテグラビル
  - ドルテグラビル・ラミブジン
  - ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジン
- (3) 「禁忌」及び「併用禁忌」の項のバニプレビル、ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビルを削除しました。
- (4) 「併用注意」の項のインジナビル、サキナビルを削除しました。
- (5) 「その他の副作用」の項の「歯肉増殖」の記載位置を変更しました。

#### 【ヒダントールD配合錠・E配合錠・F配合錠】

- (1) 「禁忌」及び「併用禁忌」の項に以下の薬剤を追記しました。
  - ドラビリン
  - ルラシドン
  - ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド
  - ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド
- (2) 「併用注意」の項に以下の薬剤を追記しました。
  - セリチニブ
  - アパルタミド
  - レテルモビル
  - ラルテグラビル
  - ポサコナゾール
  - ドルテグラビル
  - ドルテグラビル・ラミブジン
  - ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジン
- (3) 「禁忌」及び「併用禁忌」の項のバニプレビル、ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビルを削除しました。
- (4) 「併用注意」の項のインジナビル、サキナビルを削除しました。
- (5) 「その他の副作用」の項の「歯肉増殖」の記載位置を変更しました。
- (6) 「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項の記載を整備しました。

2. 改訂内容〔( ) 自主改訂、( ) 削除〕

■フェノバル原末・フェノバル散10%・フェノバル錠30mg・フェノバルエリキシル0.4%

改訂後		改訂前																	
<p><b>【禁忌】(次の患者には投与しないこと)</b>  <b>〔共通(原末、散、錠、エリキシル)〕</b>                      1.～2. 現行通り                      3. ボリコナゾール、タダラフィル(肺高血圧症を適応とする場合)、アスナプレビル、ダクラタスビル、マシテンタン、エルバスビル、グラゾプレビル、チカグレロル、<u>ドラビリン</u>、アルテメテル・ルメファントリン、ダルナビル・コビススタット、リルピピリン、リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン、リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタピン、<u>ビクテグラビル・エムトリシタピン・テノホビル アラフェナミド</u>、<u>ダルナビル・コビススタット・エムトリシタピン・テノホビル アラフェナミド</u>、エルビテグラビル・コビススタット・エムトリシタピン・テノホビル アラフェナミド、エルビテグラビル・コビススタット・エムトリシタピン・テノホビル ジソプロキシル、ソホスプビル・ベルパタスビル、ドルテグラビル・リルピピリンを投与中の患者〔「相互作用」の項参照〕  <b>〔エリキシル〕</b>                      4. 現行通り</p>		<p><b>【禁忌】(次の患者には投与しないこと)</b>  <b>〔共通(原末、散、錠、エリキシル)〕</b>                      1.～2. 略                      3. ボリコナゾール、タダラフィル(肺高血圧症を適応とする場合)、アスナプレビル、ダクラタスビル、<u>バニプレビル</u>、マシテンタン、エルバスビル、グラゾプレビル、チカグレロル、アルテメテル・ルメファントリン、<u>ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル</u>、ダルナビル・コビススタット、リルピピリン、リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン、リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタピン、エルビテグラビル・コビススタット・エムトリシタピン・テノホビル アラフェナミド、エルビテグラビル・コビススタット・エムトリシタピン・テノホビル ジソプロキシル、ソホスプビル・ベルパタスビル、ドルテグラビル・リルピピリンを投与中の患者〔「相互作用」の項参照〕  <b>〔エリキシル〕</b>                      4. 略</p>																	
<p><b>【使用上の注意】</b>                      3. 相互作用                      現行通り                      (1) 併用禁忌(併用しないこと)  <b>〔共通(原末、散、錠、エリキシル)〕</b></p>		<p><b>【使用上の注意】</b>                      3. 相互作用                      略                      (1) 併用禁忌(併用しないこと)  <b>〔共通(原末、散、錠、エリキシル)〕</b></p>																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベブラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) ドラビリン (ピフェルトロ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) ダルナビル・コビススタット (プレジコビックス配合錠)</td> <td>これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。</td> <td>本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。</td> </tr> <tr> <td>リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)</td> <td>リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ボリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベブラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) ドラビリン (ピフェルトロ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) ダルナビル・コビススタット (プレジコビックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。	リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)	リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベブラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) <u>バニプレビル</u> (<u>バニヘップ</u>) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) <u>ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル</u> (<u>ジメンシー配合錠</u>) ダルナビル・コビススタット (プレジコビックス配合錠)</td> <td>これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。</td> <td>本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。</td> </tr> <tr> <td>リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)</td> <td>リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ボリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベブラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) <u>バニプレビル</u> ( <u>バニヘップ</u> ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) <u>ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル</u> ( <u>ジメンシー配合錠</u> ) ダルナビル・コビススタット (プレジコビックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。	リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)	リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																	
ボリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベブラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) ドラビリン (ピフェルトロ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) ダルナビル・コビススタット (プレジコビックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。																	
リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)	リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。																		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																	
ボリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベブラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) <u>バニプレビル</u> ( <u>バニヘップ</u> ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) <u>ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル</u> ( <u>ジメンシー配合錠</u> ) ダルナビル・コビススタット (プレジコビックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。																	
リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)	リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。																		

改訂後			改訂前		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン (オデフシ配合錠)	リルピピリン及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びP糖蛋白誘導作用による。	リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン (オデフシ配合錠)	リルピピリン及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びP糖蛋白誘導作用による。
ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ビクトルビ配合錠)	ビクテグラビル及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するため、この薬剤の効果が減弱し、この薬剤に対する耐性が発現する可能性がある。		エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル、コビスタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。	
ダルナビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (シムツーザ配合錠)	ダルナビル、コビスタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。		エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル ジソプロキシル (スタリビルド配合錠)	エルビテグラビル及びコビスタットの血中濃度が低下するおそれがある。	
エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル、コビスタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。		ソホスブビル・ベルパタスビル (エプクルーサ配合錠)	ソホスブビル及びベルパタスビルの血中濃度が低下するおそれがある。	
エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル及びコビスタットの血中濃度が低下するおそれがある。		ドルテグラビル・リルピピリン (ジャルカ配合錠)	ドルテグラビル及びリルピピリンの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びUGT1A1誘導作用による。
ソホスブビル・ベルパタスビル (エプクルーサ配合錠)	ソホスブビル及びベルパタスビルの血中濃度が低下するおそれがある。				
ドルテグラビル・リルピピリン (ジャルカ配合錠)	ドルテグラビル及びリルピピリンの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びUGT1A1誘導作用による。			
[エリキシル] 現行通り			[エリキシル] 略		

改訂後			改訂前		
(2) 併用注意 (併用に注意すること) 〔共通 (原末、散、錠、エリキシル)〕			(2) 併用注意 (併用に注意すること) 〔共通 (原末、散、錠、エリキシル)〕		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
現行通り			略		
主にCYP3Aの基質となる薬剤 現行通り イマチニブ カルバマゼピン シクロスポリン 現行通り	これらの薬剤の血中濃度が低下し、作用が減弱することがあるので、用量に注意すること <sup>注)</sup> 。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。	主にCYP3Aの基質となる薬剤 略 イマチニブ インジナビル カルバマゼピン サキナビル シクロスポリン 略	これらの薬剤の血中濃度が低下し、作用が減弱することがあるので、用量に注意すること <sup>注)</sup> 。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。
アミノフィリン水和物 クロラムフェニコール テオフィリン パロキセチン フレカイニド			アミノフィリン水和物 クロラムフェニコール テオフィリン パロキセチン フレカイニド		
ラモトリギン デフェラシロクス カナグリフロジン ラルテグラビル 現行通り	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注)</sup> 。	本剤がこれらの薬剤のグルクロン酸抱合を促進する。 現行通り	ラモトリギン デフェラシロクス カナグリフロジン 略	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注)</sup> 。	本剤がこれらの薬剤のグルクロン酸抱合を促進する。 略
ソホスブビル レジパスビル・ソホスブビル グレカプレビル・ピブレンタスビル テノホビル アラフェナミド		本剤のP糖蛋白誘導作用による。	ソホスブビル レジパスビル・ソホスブビル グレカプレビル・ピブレンタスビル テノホビル アラフェナミド		本剤のP糖蛋白誘導作用による。
ドルテグラビル ドルテグラビル・ラミブジン ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジン	ドルテグラビルの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A4)誘導作用及びUGT1A1誘導作用による。	ドキシサイクリン	ドキシサイクリンの血中濃度半減期が短縮することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。
ドキシサイクリン	ドキシサイクリンの血中濃度半減期が短縮することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。	略		
現行通り			略		
注) 現行通り			注) 略		
6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性 (母体のてんかん発作頻発を防ぎ、胎児を低酸素状態から守る) が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること [妊娠中に本剤を単独、又は併用投与された患者の中に、奇形を有する児 (口唇裂、口蓋裂、心奇形、大動脈縮窄症等) を出産した例が多いとの疫学的調査報告がある。]。 (2)～(4) 現行通り (5) 授乳中の女性への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合には、授乳を避けさせること [ヒト母乳中へ移行し、新生児、乳児に傾眠、哺乳量低下を起こすことがある。]。			6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性 (母体のてんかん発作頻発を防ぎ、胎児を低酸素状態から守る) が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること [妊娠中に本剤を単独、又は併用投与された患者の中に、奇形を有する児 (口唇裂、口蓋裂、心奇形、大動脈縮窄症等) を出産した例が多いとの疫学的調査報告がある。]。 (2)～(4) 略 (5) 授乳中の婦人への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合には、授乳を避けさせること [ヒト母乳中へ移行し、新生児、乳児に傾眠、哺乳量低下を起こすことがある。]。		



改 訂 後	改 訂 前																		
<p><b>【禁忌】</b>(次の患者には投与しないこと)</p> <p>1.～2. 現行通り</p> <p>3. ポリコナゾール、タダラフィル(肺高血圧症を適応とする場合)、アスナプレビル、ダクラタスビル、マシテンタン、エルバスビル、グラゾプレビル、チカグレロル、<u>ドラビリン</u>、アルテメテル・ルメファントリン、ダルナビル・コピシスタット、リルピピリン、リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン、リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタピン、<u>ピクテグラビル</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル アラフェナミド</u>、<u>ダルナビル</u>・<u>コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル</u>・<u>コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル</u>・<u>コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル</u>・<u>コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル</u>・<u>コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル ジソプロキシル</u>、<u>ソホスプビル</u>・<u>ベルパタスビル</u>、<u>ドルテグラビル</u>・<u>リルピピリン</u>を投与中の患者[[相互作用]の項参照]</p>	<p><b>【禁忌】</b>(次の患者には投与しないこと)</p> <p>1.～2. 略</p> <p>3. ポリコナゾール、タダラフィル(肺高血圧症を適応とする場合)、アスナプレビル、ダクラタスビル、<u>パニプレビル</u>、<u>マシテンタン</u>、<u>エルバスビル</u>、<u>グラゾプレビル</u>、<u>チカグレロル</u>、<u>アルテメテル</u>・<u>ルメファントリン</u>、<u>ダクラタスビル</u>・<u>アスナプレビル</u>・<u>ベクラブビル</u>、<u>ダルナビル</u>・<u>コピシスタット</u>、<u>リルピピリン</u>、<u>リルピピリン</u>・<u>テノホビル ジソプロキシル</u>・<u>エムトリシタピン</u>、<u>リルピピリン</u>・<u>テノホビル アラフェナミド</u>・<u>エムトリシタピン</u>、<u>エルビテグラビル</u>・<u>コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル</u>・<u>コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル</u>・<u>コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル ジソプロキシル</u>、<u>ソホスプビル</u>・<u>ベルパタスビル</u>、<u>ドルテグラビル</u>・<u>リルピピリン</u>を投与中の患者[[相互作用]の項参照]</p>																		
<p style="text-align: center;"><b>【使用上の注意】</b></p> <p>3. 相互作用 現行通り</p> <p>(1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="text-align: center;">臨床症状・措置方法</th> <th style="text-align: center;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) <u>ドラビリン</u> (ピフェルトロ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) ダルナビル・コピシスタット (プレジコピックス配合錠)</td> <td>これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。</td> <td>本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。</td> </tr> <tr> <td>リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)</td> <td>リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ポリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) <u>ドラビリン</u> (ピフェルトロ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) ダルナビル・コピシスタット (プレジコピックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。	リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)	リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。		<p style="text-align: center;"><b>【使用上の注意】</b></p> <p>3. 相互作用 略</p> <p>(1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="text-align: center;">臨床症状・措置方法</th> <th style="text-align: center;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) <u>パニプレビル</u> (パニヘップ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) <u>ダクラタスビル</u>・<u>アスナプレビル</u>・<u>ベクラブビル</u> (<u>ジメンシー</u>配合錠) ダルナビル・コピシスタット (プレジコピックス配合錠)</td> <td>これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。</td> <td>本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。</td> </tr> <tr> <td>リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)</td> <td>リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ポリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) <u>パニプレビル</u> (パニヘップ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) <u>ダクラタスビル</u> ・ <u>アスナプレビル</u> ・ <u>ベクラブビル</u> ( <u>ジメンシー</u> 配合錠) ダルナビル・コピシスタット (プレジコピックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。	リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)	リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																	
ポリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) <u>ドラビリン</u> (ピフェルトロ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) ダルナビル・コピシスタット (プレジコピックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。																	
リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)	リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。																		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																	
ポリコナゾール (ブイフェンド) タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) <u>パニプレビル</u> (パニヘップ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) <u>ダクラタスビル</u> ・ <u>アスナプレビル</u> ・ <u>ベクラブビル</u> ( <u>ジメンシー</u> 配合錠) ダルナビル・コピシスタット (プレジコピックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。																	
リルピピリン (エジュラント) リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン (コムプレラ配合錠)	リルピピリンの代謝が促進され、血中濃度が低下するおそれがある。																		

改訂後			改訂前		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン (オデフシ配合錠)	リルピピリン及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びP糖蛋白誘導作用による。	リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン (オデフシ配合錠)	リルピピリン及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びP糖蛋白誘導作用による。
ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ビクトルビ配合錠)	ビクテグラビル及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するため、この薬剤の効果が減弱し、この薬剤に対する耐性が発現する可能性がある。		エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル、コビスタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。	
ダルナビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (シムツーザ配合錠)	ダルナビル、コビスタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。		エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル ジソプロキシル (スタリビルド配合錠)	エルビテグラビル及びコビスタットの血中濃度が低下するおそれがある。	
エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル、コビスタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下するおそれがある。		ソホスブビル・ベルパタスビル (エプクルーサ配合錠)	ソホスブビル及びベルパタスビルの血中濃度が低下するおそれがある。	
エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル及びコビスタットの血中濃度が低下するおそれがある。		ドルテグラビル・リルピピリン (ジャルカ配合錠)	ドルテグラビル及びリルピピリンの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びUGT1A1誘導作用による。
ソホスブビル・ベルパタスビル (エプクルーサ配合錠)	ソホスブビル及びベルパタスビルの血中濃度が低下するおそれがある。				
ドルテグラビル・リルピピリン (ジャルカ配合錠)	ドルテグラビル及びリルピピリンの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びUGT1A1誘導作用による。			

改訂後			改訂前		
(2) 併用注意 (併用に注意すること)			(2) 併用注意 (併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
現行通り			略		
主にCYP3Aの基質となる薬剤 現行通り イマチニブ カルバマゼピン シクロスポリン 現行通り	これらの薬剤の血中濃度が低下し、作用が減弱することがあるので、用量に注意すること <sup>注)</sup> 。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。	主にCYP3Aの基質となる薬剤 略 イマチニブ インジナビル カルバマゼピン サキナビル シクロスポリン 略	これらの薬剤の血中濃度が低下し、作用が減弱することがあるので、用量に注意すること <sup>注)</sup> 。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。
アミノフィリン水和物 クロラムフェニコール テオフィリン パロキセチン フレカイニド			アミノフィリン水和物 クロラムフェニコール テオフィリン パロキセチン フレカイニド		
ラモトリギン デフェラシロクス カナグリフロジン ラルテグラビル 現行通り	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注)</sup> 。	本剤がこれらの薬剤のグルクロン酸抱合を促進する。 現行通り	ラモトリギン デフェラシロクス カナグリフロジン 略	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注)</sup> 。	本剤がこれらの薬剤のグルクロン酸抱合を促進する。 略
ソホスブビル レジパスビル・ソホスブビル グレカプレビル・ピブレクタスビル テノホビル アラフェナミド		本剤のP糖蛋白誘導作用による。	ソホスブビル レジパスビル・ソホスブビル グレカプレビル・ピブレクタスビル テノホビル アラフェナミド		本剤のP糖蛋白誘導作用による。
ドルテグラビル ドルテグラビル・ラミブジン ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジン	ドルテグラビルの血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A4)誘導作用及びUGT1A1誘導作用による。	ドルキシサイクリン	ドルキシサイクリンの血中濃度半減期が短縮することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。
ドキシサイクリン	ドキシサイクリンの血中濃度半減期が短縮することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。	略		
現行通り			略		
注) 現行通り			注) 略		
6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性(母体のでんかん発作頻発を防ぎ、胎児を低酸素状態から守る)が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること[妊娠中に本剤を単独、又は併用投与された患者の中に、奇形を有する児(口唇裂、口蓋裂、心奇形、大動脈縮窄症等)を出産した例が多いとの疫学的調査報告がある。]。 (2)～(4) 現行通り (5) 授乳中の女性への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合には、授乳を避けさせること[ヒト母乳中へ移行し、新生児、乳児に傾眠、哺乳量低下を起こすことがある。]。			6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性(母体のでんかん発作頻発を防ぎ、胎児を低酸素状態から守る)が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること[妊娠中に本剤を単独、又は併用投与された患者の中に、奇形を有する児(口唇裂、口蓋裂、心奇形、大動脈縮窄症等)を出産した例が多いとの疫学的調査報告がある。]。 (2)～(4) 略 (5) 授乳中の婦人への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合には、授乳を避けさせること[ヒト母乳中へ移行し、新生児、乳児に傾眠、哺乳量低下を起こすことがある。]。		



改 訂 後	改 訂 前																								
<p><b>【禁忌】(次の患者には投与しないこと)</b></p> <p>1. 現行通り</p> <p>2. タダラフィル(肺高血圧症を適応とする場合)、アスナプレビル、ダクラタスビル、マシテンタン、エルバスビル、グラゾプレビル、チカグレロル、アルテメテル・ルメファントリン、ダルナビル・コピシスタット、ドラビリン、ルラシドン、リルピピリン、リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン、リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタピン、<u>ピクテグラビル・エムトリシタピン・テノホビル アラフェナミド</u>、<u>ダルナビル・コピシスタット・エムトリシタピン・テノホビル アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル・コピシスタット・エムトリシタピン・テノホビル アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル・コピシスタット・エムトリシタピン・テノホビル ジソプロキシル</u>、ソホスブビル・ベルパタスビル、ソホスブビル、レジパスビル・ソホスブビル、ドルテグラビル・リルピピリンを投与中の患者〔相互作用〕の項参照]</p>	<p><b>【禁忌】(次の患者には投与しないこと)</b></p> <p>1. 略</p> <p>2. タダラフィル(肺高血圧症を適応とする場合)、アスナプレビル、ダクラタスビル、<u>バニプレビル</u>、マシテンタン、エルバスビル、グラゾプレビル、チカグレロル、アルテメテル・ルメファントリン、<u>ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル</u>、<u>ダルナビル・コピシスタット</u>、リルピピリン、リルピピリン・テノホビル ジソプロキシル・エムトリシタピン、リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタピン、エルビテグラビル・コピシスタット・エムトリシタピン・テノホビル アラフェナミド、<u>エルビテグラビル・コピシスタット・エムトリシタピン・テノホビル ジソプロキシル</u>、ソホスブビル・ベルパタスビル、ソホスブビル、レジパスビル・ソホスブビル、ドルテグラビル・リルピピリンを投与中の患者〔相互作用〕の項参照]</p>																								
<p style="text-align: center;"><b>【使用上の注意】</b></p> <p>3. 相互作用 現行通り (1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">薬剤名等</th> <th style="width: 35%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">現行通り</td> </tr> <tr> <td>タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合：アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠) ドラビリン (ピフェルトロ) ルラシドン (ラツーダ)</td> <td>これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。</td> <td>本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">現行通り</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	現行通り			タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合：アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠) ドラビリン (ピフェルトロ) ルラシドン (ラツーダ)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。	現行通り			<p style="text-align: center;"><b>【使用上の注意】</b></p> <p>3. 相互作用 略 (1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">薬剤名等</th> <th style="width: 35%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">略</td> </tr> <tr> <td>タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合：アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) <u>バニプレビル</u> (<u>バニヘップ</u>) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) <u>ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル</u> (<u>ジメンシー配合錠</u>) ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠)</td> <td>これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。</td> <td>本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">略</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	略			タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合：アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) <u>バニプレビル</u> ( <u>バニヘップ</u> ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) <u>ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル</u> ( <u>ジメンシー配合錠</u> ) ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。	略		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																							
現行通り																									
タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合：アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠) ドラビリン (ピフェルトロ) ルラシドン (ラツーダ)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。																							
現行通り																									
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																							
略																									
タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合：アドシルカ) アスナプレビル (スンベプラ) ダクラタスビル (ダクルインザ) <u>バニプレビル</u> ( <u>バニヘップ</u> ) マシテンタン (オプスミット) エルバスビル (エレルサ) グラゾプレビル (グラジナ) チカグレロル (ブリリンタ) アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠) <u>ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル</u> ( <u>ジメンシー配合錠</u> ) ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。																							
略																									

改訂後			改訂前			
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	
リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン (オデフシ配合錠)	リルピビリン及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びP糖蛋白誘導作用による。	リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン (オデフシ配合錠)	リルピビリン及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用及びP糖蛋白誘導作用による。	
ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ビクトルビ配合錠)	ビクテグラビル及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。		エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル、コビスタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。		
ダルナビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (シムツォザ配合錠)	ダルナビル、コビスタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。		略			
エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル、コビスタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。		略			
現行通り			略			
(2) 併用注意 (併用に注意すること)			(2) 併用注意 (併用に注意すること)			
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	
現行通り			略			
アミオダロン アロプリノール イソニアジド エトスクシミド オメプラゾール クロラムフェニコール ジスルフィラム シメチジン ジルチアゼム スルチアム スルファメトキサゾール・トリメトプリム チクロピジン パラアミノサリチル酸 フルコナゾール フルボキサミン ホスフルコナゾール ミコナゾール メチルフェニデート エソメプラゾール セリチニブ	フェニトインの血中濃度が上昇することがある <sup>注1)</sup> 。	これらの薬剤又は代謝物が肝代謝を抑制すると考えられている。	ラモトリギン デフェラシロクス カナグリフロジン	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注2)</sup> 。	本剤がこれらの薬剤のグルクロン酸抱合を促進する。	
現行通り			略			
リファンピシン アパルタミド レテルモビル	フェニトインの血中濃度が低下することがある <sup>注3)</sup> 。	これらの薬剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。	アミオダロン アロプリノール イソニアジド エトスクシミド オメプラゾール クロラムフェニコール ジスルフィラム シメチジン ジルチアゼム スルチアム スルファメトキサゾール・トリメトプリム チクロピジン パラアミノサリチル酸 フルコナゾール フルボキサミン ホスフルコナゾール ミコナゾール メチルフェニデート エソメプラゾール	フェニトインの血中濃度が上昇することがある <sup>注1)</sup> 。	これらの薬剤又は代謝物が肝代謝を抑制すると考えられている。	
現行通り			略			
注) 現行通り			リファンピシン	フェニトインの血中濃度が低下することがある <sup>注3)</sup> 。	リファンピシンの肝薬物代謝酵素誘導作用による。	
注) 現行通り			略			
注) 略			略			

※ラモトリギン、デフェラシロクス、カナグリフロジンの改訂後の記載については次項参照。

改訂後			改訂前		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
現行通り			略		
主にCYP3Aの基質となる薬剤 現行通り イマチニブ オンダンセトロン キニジン クエチアピン ジソピラミド 現行通り	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注2)</sup> 。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。	主にCYP3Aの基質となる薬剤 略 イマチニブ インジナビル オンダンセトロン キニジン クエチアピン サキナビル ジソピラミド 略	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注2)</sup> 。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。
現行通り		現行通り	略		略
P糖蛋白の基質となる薬剤 現行通り		本剤のP糖蛋白誘導作用による。	P糖蛋白の基質となる薬剤 略		本剤のP糖蛋白誘導作用による。
ラモトリギン デフェラシロクス カナグリフロジン ラルテグラビル		本剤がこれらの薬剤のグルクロン酸抱合を促進する。	略		略
ポサコナゾール		本剤のUGT1A4誘導作用及び/又はP糖蛋白誘導作用による。	カスポファンギン		本剤がカスポファンギンの取り込み輸送過程に影響し、カスポファンギンのクリアランス誘導が起これると考えられている。
現行通り		現行通り	略		
カスポファンギン		本剤がカスポファンギンの取り込み輸送過程に影響し、カスポファンギンのクリアランス誘導が起これると考えられている。	注) 略		
ドルテグラビル ドルテグラビル・ラミブジン ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジン	ドルテグラビルの血中濃度が低下することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A4)誘導作用及びUGT1A1誘導作用による。			
現行通り					
注) 現行通り					
4. 副作用 (2) その他の副作用			4. 副作用 (2) その他の副作用		
	頻度不明			頻度不明	
	現行通り			略	
消化器	歯肉増殖 <sup>注5)</sup> 、悪心・嘔吐、便秘		消化器	悪心・嘔吐、便秘	
骨・歯 <sup>注6)</sup>	ケル病、骨軟化症、歯牙の形成不全		歯肉増殖 <sup>注5)</sup>	歯肉増殖	
	現行通り		骨・歯 <sup>注6)</sup>	ケル病、骨軟化症、歯牙の形成不全	
注1)～6) 現行通り			略		
			注1)～6) 略		

※ラモトリギン、デフェラシロクス、カナグリフロジンの改訂前の記載については前項参照。

改 訂 後	改 訂 前																																													
<p><b>【禁忌】</b>(次の患者には投与しないこと)</p> <p>1.～5. 現行通り</p> <p>6. ポリコナゾール、タダラフィル(肺高血圧症を適応とする場合)、アスナプレビル、ダクラタスビル、マシテンタン、エルバスビル、グラゾプレビル、チカグレロル、<u>ドラビリン</u>、<u>アルテメテル・ルメファントリン</u>、<u>ダルナビル・コピシスタット</u>、<u>ルラシドン</u>、<u>リルピピリン</u>、<u>リルピピリン・テノホビル</u> <u>ジソプロキシル・エムトリシタピン</u>、<u>リルピピリン・テノホビル</u> <u>アラフェナミド・エムトリシタピン</u>、<u>ピクテグラビル・エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル</u> <u>アラフェナミド</u>、<u>ダルナビル・コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル</u> <u>アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル・コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル</u> <u>アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル・コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル</u> <u>ジソプロキシル</u>、<u>ソホスブビル</u>・<u>ベルパタスビル</u>、<u>ソホスブビル</u>、<u>レジパスビル</u>・<u>ソホスブビル</u>、<u>ドルテグラビル</u>・<u>リルピピリン</u>を投与中の患者〔相互作用〕の項参照]</p>	<p><b>【禁忌】</b>(次の患者には投与しないこと)</p> <p>1.～5. 略</p> <p>6. ポリコナゾール、タダラフィル(肺高血圧症を適応とする場合)、アスナプレビル、ダクラタスビル、<u>バニプレビル</u>、<u>マシテンタン</u>、<u>エルバスビル</u>、<u>グラゾプレビル</u>、<u>チカグレロル</u>、<u>アルテメテル・ルメファントリン</u>、<u>ダクラタスビル・アスナプレビル</u>・<u>ベクラブビル</u>、<u>ダルナビル・コピシスタット</u>、<u>リルピピリン</u>、<u>リルピピリン・テノホビル</u> <u>ジソプロキシル</u>・<u>エムトリシタピン</u>、<u>リルピピリン・テノホビル</u> <u>アラフェナミド</u>・<u>エムトリシタピン</u>、<u>エルビテグラビル・コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル</u> <u>アラフェナミド</u>、<u>エルビテグラビル・コピシスタット</u>・<u>エムトリシタピン</u>・<u>テノホビル</u> <u>ジソプロキシル</u>、<u>ソホスブビル</u>・<u>ベルパタスビル</u>、<u>ソホスブビル</u>、<u>レジパスビル</u>・<u>ソホスブビル</u>、<u>ドルテグラビル</u>・<u>リルピピリン</u>を投与中の患者〔相互作用〕の項参照]</p>																																													
<p style="text-align: center;"><b>【使用上の注意】</b></p> <p>3. 相互作用 現行通り</p> <p>(1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">薬剤名等</th> <th style="width: 30%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 50%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">現行通り</td> </tr> <tr> <td>タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ)</td> <td rowspan="10">これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。</td> <td rowspan="10">フェニトイン、フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。</td> </tr> <tr> <td>アスナプレビル (スンベブラ)</td> </tr> <tr> <td>ダクラタスビル (ダクルインザ)</td> </tr> <tr> <td>マシテンタン (オプスミット)</td> </tr> <tr> <td>エルバスビル (エレルサ)</td> </tr> <tr> <td>グラゾプレビル (グラジナ)</td> </tr> <tr> <td>チカグレロル (ブリリンタ)</td> </tr> <tr> <td><u>ドラビリン</u> (ピフェルトロ)</td> </tr> <tr> <td>アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠)</td> </tr> <tr> <td>ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠)</td> </tr> <tr> <td><u>ルラシドン</u> (ラソーダ)</td> <td>フェニトインの肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">現行通り</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	現行通り			タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。	フェニトイン、フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。	アスナプレビル (スンベブラ)	ダクラタスビル (ダクルインザ)	マシテンタン (オプスミット)	エルバスビル (エレルサ)	グラゾプレビル (グラジナ)	チカグレロル (ブリリンタ)	<u>ドラビリン</u> (ピフェルトロ)	アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠)	ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠)	<u>ルラシドン</u> (ラソーダ)	フェニトインの肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。	現行通り			<p style="text-align: center;"><b>【使用上の注意】</b></p> <p>3. 相互作用 略</p> <p>(1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">薬剤名等</th> <th style="width: 30%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 50%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">略</td> </tr> <tr> <td>タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ)</td> <td rowspan="10">これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。</td> <td rowspan="10">フェニトイン、フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。</td> </tr> <tr> <td>アスナプレビル (スンベブラ)</td> </tr> <tr> <td>ダクラタスビル (ダクルインザ)</td> </tr> <tr> <td><u>バニプレビル</u> (<u>バニヘップ</u>)</td> </tr> <tr> <td>マシテンタン (オプスミット)</td> </tr> <tr> <td>エルバスビル (エレルサ)</td> </tr> <tr> <td>グラゾプレビル (グラジナ)</td> </tr> <tr> <td>チカグレロル (ブリリンタ)</td> </tr> <tr> <td>アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠)</td> </tr> <tr> <td><u>ダクラタスビル・アスナプレビル</u>・<u>ベクラブビル</u> (<u>ジメンシー</u>配合錠)</td> </tr> <tr> <td>ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠)</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">略</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	略			タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。	フェニトイン、フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。	アスナプレビル (スンベブラ)	ダクラタスビル (ダクルインザ)	<u>バニプレビル</u> ( <u>バニヘップ</u> )	マシテンタン (オプスミット)	エルバスビル (エレルサ)	グラゾプレビル (グラジナ)	チカグレロル (ブリリンタ)	アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠)	<u>ダクラタスビル・アスナプレビル</u> ・ <u>ベクラブビル</u> ( <u>ジメンシー</u> 配合錠)	ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠)	略		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																																												
現行通り																																														
タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。	フェニトイン、フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。																																												
アスナプレビル (スンベブラ)																																														
ダクラタスビル (ダクルインザ)																																														
マシテンタン (オプスミット)																																														
エルバスビル (エレルサ)																																														
グラゾプレビル (グラジナ)																																														
チカグレロル (ブリリンタ)																																														
<u>ドラビリン</u> (ピフェルトロ)																																														
アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠)																																														
ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠)																																														
<u>ルラシドン</u> (ラソーダ)	フェニトインの肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。																																													
現行通り																																														
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																																												
略																																														
タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合:アドシルカ)	これらの薬剤の代謝が促進され、血中濃度が低下することがある。	フェニトイン、フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素(CYP3A)誘導作用による。																																												
アスナプレビル (スンベブラ)																																														
ダクラタスビル (ダクルインザ)																																														
<u>バニプレビル</u> ( <u>バニヘップ</u> )																																														
マシテンタン (オプスミット)																																														
エルバスビル (エレルサ)																																														
グラゾプレビル (グラジナ)																																														
チカグレロル (ブリリンタ)																																														
アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠)																																														
<u>ダクラタスビル・アスナプレビル</u> ・ <u>ベクラブビル</u> ( <u>ジメンシー</u> 配合錠)																																														
ダルナビル・コピシスタット (プレジコビックス配合錠)																																														
略																																														

改訂後			改訂前			
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	
リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン (オデフシ配合錠)	リルピビリン及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。	フェニトイン、フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素 (CYP3A) 誘導作用及びP糖蛋白誘導作用による。	リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン (オデフシ配合錠)	リルピビリン及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。	フェニトイン、フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素 (CYP3A) 誘導作用及びP糖蛋白誘導作用による。	
ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ビクトルビ配合錠)	ビクテグラビル及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。		エルビテグラビル・コビススタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル、コビススタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。		
ダルナビル・コビススタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (シムツーザ配合錠)	ダルナビル、コビススタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。		略			
エルビテグラビル・コビススタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)	エルビテグラビル、コビススタット及びテノホビル アラフェナミドの血中濃度が低下することがある。		略			
現行通り			略			
(2) 併用注意 (併用に注意すること)			(2) 併用注意 (併用に注意すること)			
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	
現行通り			略			
アミオダロン アロプリノール イソニアジド エトスクシミド オメプラゾール ジスルフィラム シメチジン ジルチアゼム スルチアム スルファメトキサゾール・ トリメトプリム チクロピジン パラアミノサリチル酸 フルコナゾール フルボキサミン ホスフルコナゾール ミコナゾール エソメプラゾール セリチニブ	フェニトインの血中濃度が上昇することがある <sup>注1)</sup> 。	これらの薬剤又は代謝物が肝代謝を抑制すると考えられている。	ラモトリギン デフェラシロクス カナグリフロジン	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注2)</sup> 。	本剤がこれらの薬剤のグルクロン酸抱合を促進する。	
現行通り			略			
リファンピシン アパルタミド レテルモビル	フェニトインの血中濃度が低下することがある <sup>注3)</sup> 。	これらの薬剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。	アミオダロン アロプリノール イソニアジド エトスクシミド オメプラゾール ジスルフィラム シメチジン ジルチアゼム スルチアム スルファメトキサゾール・ トリメトプリム チクロピジン パラアミノサリチル酸 フルコナゾール フルボキサミン ホスフルコナゾール ミコナゾール エソメプラゾール	フェニトインの血中濃度が上昇することがある <sup>注1)</sup> 。	これらの薬剤又は代謝物が肝代謝を抑制すると考えられている。	
現行通り			略			
注) 現行通り			リファンピシン	フェニトインの血中濃度が低下することがある <sup>注3)</sup> 。	リファンピシンの肝薬物代謝酵素誘導作用による。	
注) 現行通り			略			
注) 略			略			

※ラモトリギン、デフェラシロクス、カナグリフロジンの改訂後の記載については次項参照。



改訂後			改訂前		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
現行通り			略		
主にCYP3Aの基質となる薬剤 現行通り イマチニブ オンダンセトロン キニジン クエチアピン ジソピラミド 現行通り	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注2)</sup> 。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。	主にCYP3Aの基質となる薬剤 略 イマチニブ インジナビル オンダンセトロン キニジン クエチアピン サキナビル ジソピラミド 略	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある <sup>注2)</sup> 。	本剤の肝薬物代謝酵素誘導作用による。
現行通り		現行通り	略		略
P糖蛋白の基質となる薬剤 現行通り		本剤のP糖蛋白誘導作用による。	P糖蛋白の基質となる薬剤 略		本剤のP糖蛋白誘導作用による。
ラモトリギン デフェラシロクス カナグリフロジン ラルテグラビル		本剤がこれらの薬剤のグルクロン酸抱合を促進する。	略		略
ポサコナゾール		フェニトインのUGT1A4誘導作用及び/又はP糖蛋白誘導作用による。	カスポファンギン		フェニトインがカスポファンギンの取り込み輸送過程に影響し、カスポファンギンのクリアランス誘導が起これると考えられている。
現行通り		現行通り	略		
カスポファンギン		フェニトインがカスポファンギンの取り込み輸送過程に影響し、カスポファンギンのクリアランス誘導が起これると考えられている。	注) 略		
ドルテグラビル ドルテグラビル・ラミブジン ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジン	ドルテグラビルの血中濃度が低下することがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A4)誘導作用及びUGT1A1誘導作用による。			
現行通り					
注) 現行通り					
4. 副作用 (2) その他の副作用			4. 副作用 (2) その他の副作用		
	頻度不明			頻度不明	
	現行通り			略	
消化器	歯肉増殖 <sup>注4)</sup> 、食欲不振、悪心・嘔吐、便秘		消化器	食欲不振、悪心・嘔吐、便秘	
骨・歯	クル病 <sup>注6)</sup> 、骨軟化症 <sup>注6)</sup> 、歯牙の形成不全 <sup>注6)</sup> 、低カルシウム血症		歯肉増殖 <sup>注4)</sup>	歯肉増殖	
	現行通り		骨・歯	クル病 <sup>注6)</sup> 、骨軟化症 <sup>注6)</sup> 、歯牙の形成不全 <sup>注6)</sup> 、低カルシウム血症	
注1)～6) 現行通り			略		
注1)～6) 略					

※ラモトリギン、デフェラシロクス、カナグリフロジンの改訂前の記載については前項参照。

改 訂 後	改 訂 前
<p><b>6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与</b></p> <p>(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性(母体のてんかん発作頻発を防ぎ、胎児を低酸素状態から守る)が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること[妊娠中にフェニトイン、フェノバルビタールを投与された患者の中に、奇形を有する児(口唇裂、口蓋裂、心奇形、大動脈縮窄症等)を出産した例が多いとの疫学的調査報告がある。]。</p> <p>(2)～(5) 現行通り</p> <p>(6) 授乳中の女性への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合には、授乳を避けさせること[フェノバルビタールはヒト母乳中へ移行し、新生児、乳児に傾眠、哺乳量低下を起こすことがある。]。</p> <p>(7) 現行通り</p>	<p><b>6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与</b></p> <p>(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性(母体のてんかん発作頻発を防ぎ、胎児を低酸素状態から守る)が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること[妊娠中にフェニトイン、フェノバルビタールを投与された患者の中に、奇形を有する児(口唇裂、口蓋裂、心奇形、大動脈縮窄症等)を出産した例が多いとの疫学的調査報告がある。]。</p> <p>(2)～(5) 略</p> <p>(6) 授乳中の婦人への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合には、授乳を避けさせること[フェノバルビタールはヒト母乳中へ移行し、新生児、乳児に傾眠、哺乳量低下を起こすことがある。]。</p> <p>(7) 略</p>

### 3. 改訂理由

#### 【自主改訂】

#### ■フェノバル原末・フェノバル散10%・フェノバル錠30mg・フェノバルエリキシル0.4%・フェノバル注射液100mg

##### (1) 「禁忌」・「併用禁忌」

- 相互作用の可能性が示されたため、ドラビリン(ピフェルトロ)、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド(ビクトルビ配合錠)、ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド(シムツェザ配合錠)を追記しました。
- 販売が中止されたバニプレビル、ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビルを削除しました。

##### (2) 「併用注意」

- 相互作用の可能性が示されたため、ラルテグラビル、ドルテグラビル、ドルテグラビル・ラミブジン、ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジンを追記しました。
- 販売が中止されたインジナビル、サキナビルを削除しました。

##### (3) 「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」

「婦人」の記載を「女性」に記載整備しました。

#### ■ヒダントール散10%・錠25mg・錠100mg

##### (1) 「禁忌」・「併用禁忌」

- 相互作用の可能性が示されたため、ドラビリン(ピフェルトロ)、ルラシドン(ラツェダ)、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド(ビクトルビ配合錠)、ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド(シムツェザ配合錠)を追記しました。
- 販売が中止されたバニプレビル、ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビルを削除しました。

##### (2) 「併用注意」

- 相互作用の可能性が示されたため、セリチニブ、アパルタミド、レテルモビル、ラルテグラビル、ポサコナゾール、ドルテグラビル、ドルテグラビル・ラミブジン、ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジンを追記しました。
- 販売が中止されたインジナビル、サキナビルを削除しました。

### (3)「その他の副作用」

「歯肉増殖」の記載を消化器の項に位置を変更しました。

## ■ヒダントールD配合錠・E配合錠・F配合錠

### (1)「禁忌」・「併用禁忌」

- 1) 相互作用の可能性が示されたため、ドラビリン (ピフェルトロ)、ルラシドン (ラツーダ)、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ビクタルビ配合錠)、ダルナビル・コビススタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (シムツーザ配合錠) を追記しました。
- 2) 販売が中止されたバニプレビル、ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビルを削除しました。

### (2)「併用注意」

- 1) 相互作用の可能性が示されたため、セリチニブ、アパルタミド、レテルモビル、ラルテグラビル、ポサコナゾール、ドルテグラビル、ドルテグラビル・ラミブジン、ドルテグラビル・アバカビル・ラミブジンを追記しました。
- 2) 販売が中止されたインジナビル、サキナビルを削除しました。

### (3)「その他の副作用」

「歯肉増殖」の記載を消化器の項に位置を変更しました。

### (4)「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」

「婦人」の記載を「女性」に記載整備しました。

☆本剤の添付文書については、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)、第一三共株式会社ホームページ (<https://www.medicallibrary-dsc.info>) 及び藤永製薬株式会社ホームページ (<http://www.fujinaga-pharm.co.jp/>) に掲載しておりますので、併せてご参照いただきますようお願い申し上げます。

〈製品情報お問い合わせ先〉

藤永製薬株式会社 くすり相談室

TEL : 03-6327-2478〔受付時間 9 : 00 ~ 17 : 30(土、日、祝祭日、当社休日を除く)〕



製造販売元  
**藤永製薬株式会社**  
東京都中央区日本橋 2-14-1



販売元  
**第一三共株式会社**  
東京都中央区日本橋本町3-5-1